

## 「クリスマスの恵み」ピリピ2：1－11 堀田修一 19・12・22

### I 父なる神の私達への驚くべき愛

1. 「愛する者たち。私たちは互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。…神は愛だからです。神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪（私達の心の中の怒り、憎しみ、恨み、ねたみ、うそ、不品行、不正、悪い行い）のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」 Iヨハネ4：7－10

2. 私達が父なる神の立場なら、大切な自分の子供を罪、悪の世に遣わすだろうか？  
愛する自分の子が、33歳になったら、人々の罪の身代わりに殺されると分かっているから？ ※自分にこの問いをすることは、大切。クリスマスの意味を深める。

### II 子なる神、キリストの私達の為の愛とへりくだり

1. 「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人として姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死（辛い辛い壮絶な苦しみの死。私達の怒り、憎しみ、恨み、ねたみ、不品行、うそ、悪口、不正の罪の償いの為に）にまで従われました」ピリピ2：6－8

2. 私達が、イエス様の立場なら、神である御位を捨てて、御父に従い、十字架で殺されると分かっているながら、この罪の世に降りて来るだろうか？

※自分にこの質問をすることは大切。クリスマスの恵みがもっと深く分かる。

①全能の神が、すべての事を他の人にお世話してもらわなければならない赤ちゃんにまで、へりくだり、人間となられたクリスマス！人間である私達に「蟻さんを救う為に、蟻さんになってくれますか」と頼まれて、蟻になる人がいるだろうか？私たち人間が、蟻を救う為に蟻になるよりも、比較にならないへりくだりを実行されて、神が人となられたクリスマスのイエス様。感謝します。

②すべての人の罪を背負い、身代わりに十字架で殺されると分かったうえで、クリスマスに、この世に来て下さったイエス様。「今、わたしは（御子なる神、キリスト）あなた（父なる神）のみこころ（私達人間の罪の為に十字架で死に、罪を償い救いを成就する）を行うために来ました」（ヘブル10：9）。感謝します。

※今年12月4日にアフガニスタンの銃撃事件で死亡されたクリスチャンの中村医師の生前の言葉「誰もそこへ行かぬから我々がゆく。誰もしないから、我々がする」。ここには、キリストのクリスマスと十字架の死に現わされた愛、へりくだり、聖なる覚悟が感じられる。

3. 「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました（宮廷でもなく宿屋以下の馬小屋にお生まれになった！神の御子の誕生に、あり得ない事が事実となった。主は貧しい方々、悩みの多い方々に寄り添われる救い主）。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者（心が満たされ心が豊かになり与える人になる）、となるためです」Ⅱコリント8：9。

※証し。貧しさの中で主が共におられ、主を証しできる恵み！

### Ⅲ 神の驚くべき愛への私達の応答

1. 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世（私達）を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」

ヨハネ3：16

「神がこれほどまでに私達を愛してくださったのなら、私達もまた、互いに愛し合うべきです。いまだかつて神を見た者はいません。私達たちが互いに愛し合うなら、神は私達のうちにとどまり、神の愛が私達のうち成全されるのです」

Ⅰヨハネ4：11, 12

※証し：主が私に愛を与えられ、主が私を通して愛を示された恵み。

2. 「私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、その証しをしています」4：14。まず、私達が主の救いと愛を受けて、家族、知人、友人に主の救いと愛を伝えたい！ 24日のクリスマスコンサートにお誘いしたい。多くの方々に、主の救いが伝わるように祈りたい！

3. 「だれでも、イエスが神の御子であると告白するなら、神はその人のうちにとどまり、その人も神のうちにとどまっています。私たちは自分たちに対する神の愛を知り、また信じています」4：15, 16。

素晴らしいイエス様を真の神、救い主として、心に受け入れられ、神の祝福を受けられますように。クリスチャンである方々は、イエス様を心の隅に追いやるのではなく、いつも心の王座にお迎えしましょう！

「見よ、わたしは（心の）戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて（心の）戸を開けるなら、わたしはその人のところ（心）に入って彼とともに食事（人格的な交わり）をし、彼もわたしとともに食事（人格的な交わり）をする」黙示録3：20